

俳優 中村敦夫が書き下ろし、演じる

元原発技術者の独白

朗読劇 一幕四場

線量計が鳴る



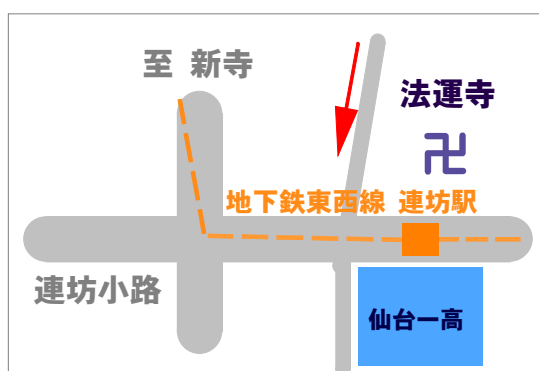
原発の町で生まれ育ち、
原発で働き、そして原発ですべてを失った。
これは、何かの陰謀でねえべが？

アンコール上演決定

仙台一高向い

会場 **法運寺**

仙台市若林区連坊 2-8-10
(地下鉄東西線・連坊駅下車 西1出口すぐ)



* 当日会場は暖房を使用しますが、
出来るだけ暖かい服装でお越しください。

2019 **1/11** (金)

13:00 開場 / **13:30** 開演

前売券: 2,000円 / 当日券: 2,500円 / 中高生: 1,000円
* 小学生以下無料

問い合わせ・電話予約: 080-9639-2691 (服部)

主催: 朗読劇「線量計が鳴る」仙台実行委員会

実行委員長あいさつ

仙台市議会議員 辻 隆一

中村敦夫さんは、2016年11月福島県喜多方市の公演を皮切りに、現在全国「100 都市公演」をめざして活動中です。

私ども実行委員会は、2018年11月7日、宮城野区文化センター・パトナシアターにて47回目にあたる仙台公演を行い、お陰さまで満員御礼、大盛況のうちに幕を降ろすことが出来ました。ご協力をいただきました皆様に厚く感謝申し上げます。前回ご参加いただけなかった方々のご要望に応え再演することにいたしました。

ヒロシマ・ナガサキの悲劇を思い起こすまでもなく、福島原発事故も「人類と核は共存できない」ということを証明しました。しかし、国は原発の再稼働をはじめ原発政策の道を強行し続けようとしています。本公演はそのような中で、原発の技術と問題点、被曝の恐ろしさ、そして福島原発の実態の告発など、原発政策の本質に迫り、大きな問題提起を投げかけている朗読劇です。

ぜひともお誘い合わせの上、ご参加頂ければ幸いです。

2018年12月 吉日

中村敦夫プロフィール



1940年東京生まれ。幼年期に父の出身地である福島県いわき市に疎開し小中学校を過ごす。1958年東京外語大学に入学。在学中に演劇に興味を持ち大学を中退、1960年俳優座養成所、1963年には俳優座に入団。そして1972年放映の「木枯し紋次郎」が空前のブームになりその後も数々の主演を務める。1984年には情報番組「地球発22時」のキャスターに起用される。1998年参議院東京選挙区から立候補して当選。2002年には党名を「みどりの会議」に変え、日本最初の環境政党を作ろうと全国の組織化に奔走する。2004年政界引退を表明。2012年には日本ペンクラブのチェルノブイリ視察団に参加。

アマゾン売れ筋
ランキング
核・原発部門上位

「朗読劇 線量計が鳴る」が本になりました。

当日会場でサイン入りで販売いたします。

もう一発やらかしたら

日本列島はおしまいだ

死ねといわれたら死ぬ。そしたら日本人にはなりたくねえ！

ニュースキャスター、政治家、そしてなにより「木枯し紋次郎」として知られる中村敦夫さん。2011年の地震・原発事故以来、現実的な原発の危険性が一般に理解されるにはどうしたら良いのか考えてきました。試行錯誤するうちに思い立ったのが、朗読劇という表現方法。一人で道具を背負い、日本各地で上演しているのが本作「線量計が鳴る」です。東北弁で語られる実証的な情報に、「学び」と「興味」が相乗し、公演は各地で満員御礼。評判が評判を呼んでいます！

原発の技術と問題点、被曝の危険性、福島第一原発事故の実態など、原発の基礎から今日の課題までを、分かりやすく伝えます。

中村敦夫 著 黒田征太郎 装画 ¥ 1,296 (税込)

出版社：而立書房 ISBN：978-4880594118 発売日：2018/10/15

